

# 白 ゆり

## ネットワーク作りから

西南学院大学女子同窓会々々長 内海昌子

西南学院大の女子卒が始まって四十余年、卒業生も約一人となった今、職場や地域であるいはグループやボランティアとして、たくさんの姉妹が活躍の事でしょう。同窓会の意義や目的を考えると、男だ女だと区別することも無いのですが、西南七十年の歴史の中では、やはり男性中心となるのは致し方ないことだと思えます。そこで先輩諸兄のご理解もあって、少しばかりハンディを頂いて女子同窓会が誕生したわけです。

女性の社会進出が著しいこの近年ですが周りを見ますと、出産は勿論(!!)のこと、その他モロモロの雑用の大半は女性が担っている場合が多いようです。仕事と家庭を立派に両立させている女性がいかに多いか感心させられます。この目まぐるしく動く世界、土壇場に追い込まれようとしている世界を打開でき

### 0 号

〈創刊準備号〉

西南学院大学女子同窓会  
(西南ゆりの会) 機関誌

1992年11月1日発行

発行人 内海昌子

福岡市早良区西新1丁目  
西南学院大学同窓会内

連絡先=福岡市上呉服町5-30  
梓書院内

女子同窓会発会式記念写真  
1986年3月29日於国際ホール

るのは、柔軟な発想と果敢な行動力を持った女性にしか出来ないのではないかと思っております。

さて、この女子同窓会ですが、発足以来七年、手さぐりで一步前進二歩後退のような歩みながら、よりよいものを求めて夢中でやっ参りました。ここに来て、何か曲り角かな? というのが、我々の実感です。ここ何回かの集まりでも方向性を求めて侃々諤々論議が沸騰しましたが、まだ結論は出ません。またすぐ出せるものも思っておりませんが、「何とかしなくては」の第一弾がこのミニコミ広報です。ウーマンリブではなく、有能な女性がちゃんと評価されるような、そんな社会が実現されることを願って、楽しくタメになるネットワーク作りを始めようではありませんか。



総会と『秋のつどい』へどうぞ

第7回総会並びに『秋のつどい』を下記の要領で開きます。女声合唱の調べとパイプオルガンの響きに耳を傾けながら、ゆく秋を惜しみませんか？当日は総会も開きます。当会にたいするご意見、ご希望などもお聞かせください。

- ・日時…平成4年11月21日（土）  
午後1時30分～5時
- ・会場…西南学院大学ランキンチャペル  
及び2号館7階ラウンジ
- ・会費…3000円（懇親会参加者のみ）

<プログラム>

- 1部…総会（於・ランキンチャペル）
- 2部…女声合唱とパイプオルガン演奏  
・西南プリエール（指揮・野口儀さん）  
・パイプオルガン演奏  
オルガニスト・青野詔子さん
- 3部…懇親会（於2号館7階ラウンジ）  
（各部とも直接会場受付いたします）

まだ生れたばかり、と想っていた私どもの会も、いつの間にかもう七年の月日が流れています。発会式は春爛漫の花の季節でした。だれが叫んだわけでも、力をこめたわけでもなく、その時小さな一歩を踏み出しました。改めて考えてみれば、女性の社会的関わりが密になってきた環境や、キャンパスという青春のふるさとへのあこがれがだれの心の中にもふくらんでいたことなど、お膳立ては充分にできていたということなのでしょう。「秋の集い」や「ミニサロン」など試行錯誤を繰り返しながらも、会を重ねてこれたことに今更ながら驚きを覚えます。組織づくりや同窓会活動に全く不慣れた運営グループでスタートしたのですから。それでも和気藹々とした空気がいつも流れていたのは、学部や年代を越えて西南の卒業生という一点だけで心を通じ合えるという不思議な力に支えられていたからなのです。何より、こんな私達の危なっかしい足どりにあかかわらず、あたたかく見守り、育ててくださった多くの卒業生や周囲の方々ひとりひとりのお顔を思い出さずにはおれません。私達の会はこれからです。序曲から今やっと、第一楽章にさしかかったところ、といえるかもしれせん。これからどんなメロディーを奏でるか、ご期待ください。

思い出すまま

渡辺 由美

（女子同窓会初代会長）

平成3年度事業報告

- 第12回ミニサロン（5月24日・金）  
題：博多は国際交流の拠点であった。  
講師：高倉洋彰先生（西南学院大学教授）
- 女子同窓会総会（6月14日・金）  
全体の総会にあわせて
- 第13回ミニサロン（9月18日・水）  
題：尊厳死について－生きる権利・死ぬ権利  
講師：波多江伸子先生（小郡看護学校教師・72期）
- 第5回秋の集い（11月16日・土）  
第1部「アジアの中の福岡」  
講師：桑原敬一福岡市長による基調講演  
第2部「福岡の空からアジアが見える」  
－パネルディスカッション－  
パネリスト：大塚基博氏（55期・マレーシア名誉領事）、大橋健二氏（69期・大韓航空）、中島佳子氏（シンガポール航空）、川瀬友弘氏（全日空）、北村正彦氏（キヤセイ航空）
- 第14回ミニサロン（平成3年2月21日・金）  
題：国際交流について  
講師：ミッシェル・リヴィア米国首席領事夫人

平成3年度収支報告書

1. 収入の部

項目	収入額	備考
同窓会補助金	400,000	西南学院同窓会より
講演会費	289,000	第6回秋の集い チケット代 244,000 お祝い金 45,000
ミニ講座費	107,000	懇親費 1人1,000
繰越金	0	
その他	1,085	預金利息
収入の部合計	797,085	

2. 支出の部

項目	支出額	備考
講演会費	260,681	第6回秋の集い経費
講師謝礼	145,750	第6回秋の集い、市長さん、司会者への謝礼
ミニ講座費	120,547	第12回～14回ミニサロン、懇親会、会費、英米代 能大学院会出陣のチケット代
慶弔及び 渉外費	55,390	木村英文氏お祝いの花代等
通信費	67,284	第6回秋の集い葉書・切手代
印刷費	15,000	葉書印刷代金
会議費	50,000	年間役員会会場費及び事務所費
雑費	1,324	事務用品代等
借入金	46,949	前年度借入金返済
支出合計	762,925	
差引残高	34,160	次年度へ繰越
支出の部合計	797,085	

# 河野さんをお訪ねして

内海 昌子

急にアメリカ西海岸を旅行することになり、かねてより女子同窓会の応援団長でいらっしゃる大先輩の河野さんをサンノゼにお訪ねしました。

ロスアンジェルスで国内便の小さな飛行機に乗りつき、サンノゼの空港に降りましたら、最初の出口に河野さんとご長男の奥様（キャロルさん）がにこやかに立っておられて、一人旅の不安も十時間余りのフライトの疲れも吹き飛んでしまいました。

この四月に近郊のサニエールから息子さんのいらっしゃるサンノゼのホームに移られたということでしたが、あの背筋をピンと伸ばしたお姿は相変わらずで、本当にお元氣そうです。



うるわしの白百合  
ささやきぬ昔を  
イエス君の墓より  
いでまし昔を。  
うるわしの白百合  
ささやきぬ昔を、  
百合の花、ゆりの花、  
ささやきぬ昔を。

賛美歌 四九六番

た。ここサンノゼはカリフォルニアらしく明るい太陽が照っていても陽かげは涼しくさわやかでほんとに暮らしやすい所のようにでした。

泊めて頂いたのは息子さんのお宅で、その一角には小学校もある（奥様はその学校の先生をしていらっしゃる）住宅地の中にあり、今ちょうど、半年ほど福岡に来ていらっしゃるお嬢様のヘザーさんのお部屋を使わせて頂きました。博多弁なら大得意のこの私ですのに、奥様のマサコ、マサコと親しみを込めたお話しにつられてつい英語も喋ってしまいました。ご理解頂けたかどうかは疑問ですが……、夕食迄の時間と一緒に近所を散歩したりアル

パムを見せて貰ったりとゆっくりさせて頂き、夕食にはおいしい中華料理をご用意下さいました。ホームをお訪ねすることは出来ませんでした。日常の暮らしは色々とお話し下さいました。仏教

経営の施設で、食事



左から河野さん、筆者、キャロルさん

は一日一回食堂で給食があり、それとても充実していて半分を夜に食べてちよと良いくらいです。

ホームの日系女性の方お手製の奈良漬けもおいしく食べさせて頂きました。

翌朝は土曜日で、お勤め先の病院が休みの息子さんにサンフランシスコ空港迄送って頂き、河野さんと別れを惜しみました。この次はもっとたくさんの方々とお訪ね出来たら良いなあと思います。

（事務局注）河野勤さんは旧制高商昭和七年卒。女子同窓会の渡辺由美初代会長が、アメリカ旅行の途次、ロスアンジェルスで河野さんのお宅を訪問したことがきっかけで、女子同窓会を応援して下さいになり、これまでも殆ど毎年秋のつどいに、はるばる駆けつけて下さっています。また多

額のご寄付もいただいております、このご厚志を有効に使わせて頂くには、どうしたらいいかが懸案となっております。そこでこのほど役員会で話しあいました結果、「さらまっぼの会」にまず一口参加することから始めようということになり、早速事務局宛送金いたしました。そのご報告かたがた「さらまっぼの会」の簡単なご紹介をいたします。（今回の加入にあたっては、河野さんのご寄付の利息分をあてる、対象の学生は四年制大学の女子に限り四年間スポンサーとなるとの条件をつけております。）

## 「さらまっぼの会」

一九八二年九月に発足したフィリピンの大学生のための奨学支援民間団体。日本での事務局はカトリック高輪教会内（東京都港区四一七一） Ⅷ〇三―三三四四―一四〇四〇 郵便振替東京一四一―三三四―一四〇四〇「さらまっぼの会」にあり、ボランティアの方々管理と運営に当たっております。一年間五万円でフィリピンの大学生一人の一年間の学費を負担するスポンサー制度を推進するために、一九八二年発足、本年度でちょうど十年目を迎えますが、これまでに、延べ一〇五九名の学生の進学と就学を支援してきました。「さらまっぼ」とはフィリピンの言葉で「ありがとう」という意味です。

# ハンサムウーマン①

## 納富昌子さん

(RKB毎日放送報道部副部長)



自分の足等が必要な知識を得るよう努力しましたし、つまり、戦略をたてて事に臨んでいく、自分でできる、それゆえにハンサムな女性。この

欄ではそんな同窓生をインタビュー、自分の語りで答えてもらいます。トッ

プバッターはRKB毎日のキャスター納富昌子さんです。

―大学で得たものを一言で。  
松の緑のキャンパスで、心の豊さを育むことができました。

―印象に残った学生時代の思い出を一つ。  
特に大きな事件は無く、ゆったりとした雰囲気にもまれて、ある時ふと思

いましたね、「クリスチャンでもなく、宗教にもほとんど関心のない自分だが、神とは自分の心の中にある良心」をさすのか？」と。

―今のお仕事を選んだ動機を。  
一言で言えば、好きだからです。放送ジャーナリストという自分の好きな職業に就くためにはどうしたらよいか、在学中から目標を決めて準備を進めてきました。そのためのセミナー通

いや放送局でのアルバイト等が必要知識を得るよう努力しましたし、つまり、戦略をたてて事に臨んでいく、自分でできる、それゆえにハンサムな女性。この

夢叶って入社したものの、配属された現場は「女性記者なんてイライナイという時代」でしたから、職場に自分の場所を確保するまでに五年十年とかかりました。二十年経った今でも、おぼつかない気もしますが。

―職業を続けておられて良かったと思われることを一つ。  
途中、結婚・出産とありましたが、女性記者、ニュースキャスター、選挙報道番組など次々と新しいチャレンジをクリアして、その度にそれなりの手応えを感じ、喜んでいます。

―女子同窓会に期待することを。  
男女共生への足がかりとなるように期待し、男・女という性を超えたネットワークが根づいていくような運営の方向付けが必要でしょう。

(76期 文学部英語専攻)



グループ 西南プリエール (女声合唱団)

西南学院創立七十周年記念音楽会を契機に、昭和六十一年七月に発足した、西南学院卒業生による女声合唱団です。現在、団員は二十五名余で、二代から六〇代まで幅広い年齢ですが、和気藹々とした雰囲気の中でハーモニーを楽しんでいます。入団希望の方は左記へご連絡下さい。

・練習日 毎月三回(第一・三・四週)

の土曜日午後二時〜四時)

・場所 YWCA会館二階ホール

・入会金 一〇〇〇円

・会費 一五〇〇円

・連絡先 古賀四八四一―一七五七

後藤四八七一―四七〇六

### ◆事務局から◆

○念願の女子同窓会機関誌を発行することにになりました。今回は、創刊に向けての準備号です。皆様の御意見・御感想をお聞かせ下さい。楽しく読んで頂けるものにしたと思います。

○長年、通称の無いままの、堅苦しい「西南学院大学女子同窓会」でしたが、役員会で協議した結果、やっ

と女性らしくまた学生時代に歌った賛美歌にちなんで「西南ゆりの会」

と命名しました。この会名にふさわしく、皆様と共に歩んでいきたいと思

います。

○西南ゆりの会のお手伝いをして戴

けませんか？ 皆さまのご連絡をお

待ちしています

○投稿、近況報告、旅先からのお手

紙などもどうぞお寄せ下さい。皆さ

まの交流の場としてお役に立てる紙

面であるようにと願っています。

連絡先 二七一―五二八八

梓学院(田村)